

マクロ学会通信

2011年 10月号(Vol.23 No.246)

報 告

日本マクロエンジニアリング学会シンポジウム2011が下記の通り実施されました。

日 時： 2011年 9月 12日(月)
時 間： 13:00-17:30
場 所： 拓殖大学 文京キャンパス C館 306
基調講演：「震災列島 ～私たちにできること～」
作家 高嶋 哲夫 先生

講 演：

- 1.大津波を考慮したまちづくりのありかた
亀田 泰武 理事(水の未来工房)
- 2.写真説明：浦安市の液状化被害、
旭市飯岡地区の津波被害とガレキ仮置き場、その他
谷本 光生(谷本事務所)
- 3.第3次関東大震災のリスクシステム分析と政策シミュレーション
安田 八十五(理事 関東学院大学経済学部教授・工学博士)
- 4.東日本大震災における岩手県を事例とした
「参加型復興(開発)の手法と理念」
新田 義修(岩手県立大学 総合政策学部 講師)
- 5.将来の環太平洋自然エネルギー経済圏の可能な形態について
木下 幹夫 理事(地球環境問題研究家)

シンポジウム開始前に設けました昼食懇親会には、作家の高嶋先生、拓殖大学海外事情研究所 森本敏所長をお迎えしました。また、シンポジウムでは、パネルディスカッション及び総合討論にて活発な質疑が行われ盛会裏に終了しました。

お 知 ら せ

■ 研究大会の発表者募集 : 10月末迄

来 2/13(月)に東京大学本郷の山上会館 2階にて研究大会を開催いたしますので、プログラム策定のため、当日研究発表をご希望の理事・(準)会員におかれましては 10月末までに発表内容のキーワードおよび当日の出席/欠席の決定時期を添えて kakutas@jamstec.go.jp 宛にご連絡ください。

■ 理事会のお知らせ

日 時： 2012年(平成24年)2月13日(月)
場 所： 東京大学本郷の山上会館

■ 年次研究大会 の開催のお知らせ

日 時： 2012年(平成24年)2月13日(月)
場 所： 東京大学本郷の山上会館

■ 合同研究会

(地球環境研究会と文明システム研究会)

(代表 谷本光生)

日 時： 10月15日(土)16:00～
場 所： JICA 地球ひろば ミーティングルーム②
(部屋の確保時間：15:00～19:00)
議 題： 東電福島原発事故及びその処理について
話 者： 江原 靖夫先生
元東芝・原子力部門技師長経験者
(東工大で、故玉山理事長と同級)

日 時： 11月19日(土)16:00～
場 所： JICA 地球ひろばミーティングルーム②
(部屋の確保時間：15:00～19:00)
議 題： 未定ですが、10月の続きをお願いする予定

■ 経営関連学会協議会より

第4回 シンポジウム「経営教育の高大連携」のお知らせ

日 時： 2011年11月20日(日) 11:00～19:00
会 場： 関西大学 千里山キャンパス 100周年記念会館
報 告： 大阪市立「新商業高校」の構想における
経営リテラシーの具体化

詳細につきましては

Email: ac045-jfmra@canpan.org

事務局連絡窓口までお問合せ下さい

<会員の皆様>

本マクロ学会通信は、次号11月号(Vol.23No.247)は、**2011年11月1日**発行予定です。次々号については12月15日と発行間隔が開きます。ご注意ください。

メールアドレスをお持ちで、事務局にメールアドレスを登録されていない会員の方は、是非事務局までお知らせください。(メールを使用されていない方には、これまで通り送付対応いたします。)

マクロ学会だより

出版のお知らせ

茂木創(著)

『食料自給率という幻—誰のための農業政策なのか』
(唯学書房)

ISBN-10: 4902225662

ISBN-13: 978-4902225662

発売日: 2011/9/30

価格: 1800円+税

このたび、経済工学研究会の足かけ4年にわたる食料自給率に関する研究成果の、一般向け啓蒙書が唯学書房より刊行の運びとなりましたのでご報告申し上げます。

食料自給率を高めれば、本当に私たち国民の生活は今よりも豊かになるのでしょうか。

この点に対して、先入観を持たずに再検討してみようという意図から、本書は執筆されました。経済学的思考のもとに書かれていますが、一般読者が予備知識なく読めるよう配慮しました。

本書は、「自給率は上げるべきだ」という立場ではありません。だからといって、「自給率なんて問題ない」という立場でもありません。本書を貫くものはただひとつ、「自給率にこだわってこの国をどうしたいの?」というある意味冷やかな視点です。

野心的ではありますが、食料自給率をテーマとして取り上げることによって、「大事なものは『国益』である」ということを、高校生から一般社会人の皆さんにお伝えしたいという願いから本書は生まれました。本書を通じて、客観的かつ冷静に食料自給率の問題を考えることによって、「国益」について考える契機となっていただければ幸いです。

目次

はじめに

- 第1章 食料自給率とはなんだろう
 - 第2章 輸入食料は悪なのだろうか
 - 第3章 なぜ食料自給率だけが問題とされるのだろうか
 - 第4章 飢える途上国と世界の食糧事情、そして日本
 - 第5章 農業大国・中国とどのように付き合うか
 - 第6章 誰のための「安全」なのだろうか
 - 第7章 最適食料自給率とその実現に向けて
- おわりに 食料自給率という幻を追いかけたいいけない



角田理事より

公開シンポジウム:

「社会における科学者の責任と役割」のお知らせ

独立行政法人科学技術振興機構(JST)より、標記シンポジウムのご案内が届きましたので、お知らせいたします。

【概要】未曾有の被害・損害をもたらした東日本大震災に際し、科学者の識見が社会に安心をもたらす社会から信頼を得るという関係が実は幻であったことが露呈しました。

本シンポジウムでは、科学者による「統一された見解」の形成、それに基づいた中立的助言、政策提言の必要性、及び諸外国に対しての情報開示の在り方等について、ブルース・アルバーツ博士(「サイエンス」編集長、前全米科学アカデミー会長)ならびに吉川弘之博士(科学技術振興機構研究開発戦略センター長)等を交えて議論を行い、科学者はもとより、広く社会に対してのメッセージを発信します。

【日時】2011年10月5日(水) 13:30~18:00

【会場】政策研究大学院大学 1階 想海楼ホール(東京都港区)

【主催】独立行政法人科学技術振興機構(JST)

国立大学法人政策研究大学院大学(GRIPS)

(予定)

<参加申し込み・プログラム>

<http://www.jst.go.jp/inter/symposium/sympo2011.htm>

ホームページ移設について

これまで国立情報学研究所 学協会情報発信サービスのホームページ構築・提供支援によってホームページを運用してきましたが、来年3月に終了します。そこで亀田理事のご尽力により下記アドレスへ引越しが完了しました。

<http://www.jame-society.jp/>

新アドレスにてホームページ御覧下さい。

発行・編集 日本マクロエンジニアリング学会事務局
〒112-8585 東京都文京区小日向 3-4-14
拓殖大学海外事情研究所
吉野研究室内(担当: 齊藤)
Tel/Fax 03-3947-2323
E-mail: fyoshino@ner.takushoku-u.ac.jp
URL : <http://www.soc.nii.ac.jp/james2/> (2012.年3月まで)

変更後の新しいホームページ

<http://www.jame-society.jp/>

本通信の他への無断転載を禁じます。